

## 低炭素型自動車交通推進事業で 天然ガストラック3台を導入

柏 良治〔株サンボウ 取締役営業部長〕

当社の天然ガス自動車の導入は、1998年に堺市の事業によって1台導入したのが始まりでした。その後、2002年のISO14000の取得をきっかけに、随時ディーゼル車から天然ガス車に入れ替えてきました。

大きな転換は、メインの取引先である(株)シマノ様がカーボンマネジメントを大々的に打ち出した際に、当社が、物流のCO2削減を図るために電気に頼らない倉庫の建設と、協力業者間の配送を天然ガストラックによるルート便の運航を提案したことでした。当時、何十社もの協力業者がそれぞれの車両で自社工場とシマノ様の倉庫を往復していました。そこで、シマノ様を出た車両が、A社からB社、B社からC社というように数社の協力工場を一巡し、最後にシマノ様に戻るルート管理システムへの変更を提案したのです。これにより、運搬車全体の走行距離が短くなり、さらに、天然ガストラックを利用することで、CO2排出



(株)サンボウの柏良治氏

国の「低炭素型自動車交通推進事業」で導入した天然ガストラック

量を約半分に抑えることに成功しました。

こうした流れの中

で、2011年末に国土交通省の「低炭素型自動車交通推進事業(トラック分野)」の公募によって、4トン車3台を導入しました。現在、全車両34台のうち23台が天然ガス車に切り替わっています。

「天然ガストラックは馬力がない」という声を聞くことがありますが、当社の運転手からはそうした話がでたことはありません。振動も騒音も少なく、臭いもでないので、倉庫で働いているリフトマンも喜んでいます。また、地域でも「サンボウは環境にやさしい会社」との評価を頂いています。

この3月に初めて大型天然ガストラック1台を導入しました。今後も徐々に切り替え、いずれは全車両を天然ガス車にすることを考えています。

## CNG Top Interview

## エコドライブの徹底と 低公害車の導入を中心に

東 眞也〔南海バス株式会社 取締役社長〕

環境問題は、南海電鉄グループ全体の今後の事情計画、事情の発展を鍵を握っていると考えています。特に、交通分野における環境負荷の軽減のためには、公共交通機関の利用促進が不可欠です。しかし、環境のために利用するのではなく、バスが生活の中に溶け込んでいることが重要ですし、それが環境問題に資することだと思えます。その一環として実施している「環境定期券」は、通常のバス定期券をご利用のお客様に土日バスをご利用頂くため、通常の定期券を提示すれば、家族の人数、料金にかかわらず一人一律100円で利用できる仕組みです。また、「お出かけ応援バス」は、65歳以上の堺市在住の方は5と0のつく日は100円で利用できるものです。お年寄りが外出する機会を増やすことで健康の維持に役立つだけでなく、その際に買い物をしていただければ商店街などの振興にもつながります。

南海バスの環境計画の柱は、エコドライブと低公害車の導入です。CO2排出量を抑制するエコドライブの実施は、頻繁に



NTT西日本APが経営する天然ガスエコステーション



南海バスの東眞也取締役社長

ブレーキを掛けたり、急発進をしないスムーズな運転になるため、やさしい運転になると同時に、排気ガスの量を減少し、燃料の消費の抑制にもなります。南海バスでは2010年から全車両にドライブレコーダーを装備し、徹底したエコドライブに取り組んでいます。

低公害車の導入については、既存のディーゼルバスを最新の環境規制に適合する車両に切り替えることを柱に、天然ガスバスやハイブリッドバスの導入を進めています。なかでも天然ガスバスは、車体が大きく黒鉛(NOx)を大量に出すというマイナスイメージを払拭し、企業イメージの向上にもつながると考えています。

ただし、天然ガスバスの導入を加速させるには、車両価格の値下げ、購入時の補助金の充実、燃費や走行距離など性能面のさらなる向上、充填施設等のインフラ整備といった課題を解決していくことが重要であると考えています。